

活動報告(2014年10月下旬～11月上旬)

2014年11月10日
在グアテマラ日本大使館
大使 川原 英一

◆いすゞ自動車関係者との懇談

10月24日、当国でのいすゞ自動車の新型ピックアップ・トラック及びSUV車の販売開始を控え、当国販売企業(Isuzu Autocom)会長であるエドアルド・ハール(Jaar)社長と



「いすゞ自動車国際事業会社:Isuzu Motors International Operations(パナマ)SA」の神吉(かんき)副社長をお招きし、当地及び中南米自動車事情など伺いました。現在は、いすゞタイ工場産車を中南米地域20カ国で販売していること、ピックアップでは、パナマ・コスタリカ・パラグアイの各国では、中古車輸入に国が制限を設けており、新車の売れ行きが良い、他方、グアテマラ他の国のように中古車輸入規制が厳しくないところでは、新車が売れにくい状況であるとのことでした。また、いすゞのディーゼルエンジンは、このタイプでは世界でも耐久性に優れているとの御説明がありました。

◎独のナショナル・デー

10月22日夜、フランシスコ・マロキン大学(UFM)イシチェル博物館前広場で独大使夫妻主催のナショナル・デー・レセプション



があり、参加しました。当日会場では、ドイツ国旗の色を基調としたマントを羽織った少年少女達による合唱があり、ドイツとグアテマラ国歌の合唱終了後、参加者から大拍手と喝采がありました。ドイツ統一の日は10月3日なのですが、



が、他方、ベルリンの壁崩壊が、25年前の11月10日未明(※9日との説もあります)であり、その間をとって10月下旬にナショナルデーレセプションが開催されたとの説明がありました。

◆国立近代美術館を訪問



10月28日、近代美術館にホセ・マサ(Maza)館長(左写真:左側の方)をお訪ねしました。当地スペイン大使から、ダリ、ゴヤの展示をしているので、是非、観て欲しいとの御紹介があり訪問しました。ダリ展では、80点のトリウム画を展示しており、ダリの





50才代の円熟期の作品が中心でした、超リアリズム画家の作品を生かす斬新な展示内容でした。マサ館長とお話していて、11年前には、JICA研修プログラムで日本に8ヶ月研修され、その間に他国からの研修生と共に日本全国の美術館を訪問したこと、日本でもダリは人気が高いこと、当方の前任地である米国フロリダのセント・ピーターズバーグにあるダリ美術館には、ダリが無名の時代からの充実したコレクションが沢山あること、また、六本木ヒルズにある森美術館の現代美術品展示は大変すばらしかったこと、さらには、2年前、同美術館で日本の陶磁器展を実施したことなど伺いました。

来年8月下旬から、国際交流基金事業として、日本の伝統工芸展を同美術館で約1月間にわたり実施予定なので、展示スペースを見学させて頂きましたが、建物外見、内部の天井の造り(左写真)が素晴らしいので、お聞きしたところ、元々は、政府主催の舞踏会会場として利用できる建物であったそうです。

◆当国自動車ショーの開幕

10月下旬、グアテマラ市内で新型自動車ショーが開かれ、期間中に訪問する機会がありました。展示されていたのは、主に日本や欧米の車ですが、中には、インドや中国車の展示ブースもあり、興味深く感じました。また、展示場外には、地元銀行のデスクもあり、融資相談も行える



ようです。毎年、新車の販売台数が着実に伸びているとのこと。

◆米国新大使の着任レセプション



11月3日、ロビンソン米国新大使(左下写真:真ん中の方)の着任レセプションが、グアテマラ市内の米国大使公邸であり、参加致しました。さすがグアテマラと関係の深い米国の大使の着任レセプションなので、ロペス国防大臣やペレ

ス・モリーナ大統領夫人(右側の記事下欄写真で右端の方)も



参加されておられました。

トッド・ロビンソン米国大使は、10月27日に他の大使数名とともにペレス大統領に信任状を奉呈したばかりです。当方の前任大使とは同じ頃にバルセロナ総領事をされていたことや、2011年までグアテマラ米大使館の次席館員として勤務していたとのお話を伺いました。

◆世銀の日本基金による栄養改善プロジェクトの署名式

当国の貧困層人口は、人口全体の過半数を占めています。特に、地方貧困層の子供とお母さんの栄養改善は、最大課題の一つになっています。70数年前にアジアの戦争孤児の支援から活動を始めた国際NGOであるChild Fundが、当国の地方貧困家庭の子供とお母さんの栄養改善プロジェクトに今後4年間取組ことになりました。そのため、世銀の中に設置されている日本社会開発基金から270万ドルを拠出して実施す



るための署名式が、11月7日、当地の世銀事務所でありました(右端写真:当地主要紙による本プロジェクト記事)。

実施NGO団体のChild Fundは、ホンジュラスやベトナムなどで同様のプロジェクトをしてきたと伺いました。当方から、日本の技術協力でも、生活改善の重点分野活動として、母子健康プロジェクトを現在実施中であること、今後、当国の子供とお母さんの栄養改善に向けた技術協力を実施予定でもありますので、世銀日本基金により実施する本プロジェクトと連携して実施されることを期待していると申し上げました。

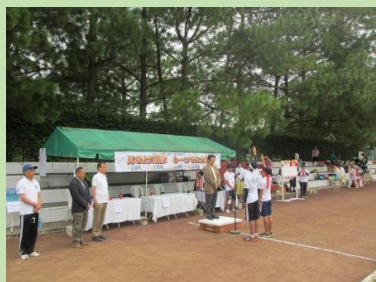
◆日本人学校運動会:

11月8日、当地日本人学校の37回目の運動会がオーストリア校の運動場を借りて開かれました。

今年の運動会のスローガンは、「見せよう団結！心ひとつで全力疾走！」です。小学校・中学校の児童生徒及びご父母の皆様、



元国費留学生、JICAや大使館関係者など、全員が参加する形で、広い運動場で、紅白玉入れ、千メートル走、長縄跳び、綱引き、リレーなどの競技で大活躍をされていました。また、運動会終了後には、日本人会による屋台村、盆踊り大会もあり、在留邦人、元国費留学生のご家族の皆さんが



は、日本人会による屋台村、盆踊り大会もあり、在留邦人、元国費留学生のご家族の皆さんが

参加されて、楽しいひと時を過ごされました。

◆日本(パナソニック)製品の当国販売企業関係者との懇談

パナソニック中米販売会社(グアテマラ拠点)のモントーヤ総支配人と懇談する機会がありました。同社はTV、オーディオ機器、洗濯機、電話機、エアコン、電子レンジなど家電製品を販



売しております。なかでも電話機器は当国市場で圧倒的なシェアをしてみているとのこと、パナソニック製品の輸入先は、マレーシア、中国、メキシコ(特にTV)、台湾、ブラジルそして日本(主に電話機器)となっており、海外生産工場のものが大半となっているそうです。

洗濯機など白物家電では、価格の安い中国、韓国、インド、ロシア製品が市場に相当に入ってきていること、また、当国では、割賦販売が主流であるが、その利子が20%以上といったことも多いので、これらの比較的価格の安い製品であっても、実際の支払総額は、購入価格の倍以上になることがある、また、品質・メンテ費用を考えれば、日本製品の方が良いことを理解してもらおうよう努力が必要です、とのお話を伺いました。(了)